



## 2 法人の経営内容の詳細

### (1) 目的適合性(公益性)

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 設立目的	1	法人は、設立目的に沿った活動を行っている。	○	
	2	全ての事業内容が、設立目的または趣旨にしたがって展開されている。	○	
	3	現在の社会経済情勢の下でも、法人の設立目的や事業には公益性が認められる。	○	
	4	法人を取り巻く社会経済状況は、設立当初から大きな変化はない。		○
2 代替性	5	民間等(株式会社の場合、他の事業者等)において、代替が可能な類似の事業が行われていない。		○
	6	現在の事業量は、最大時の事業量と比べて著しく減少していない。	○	
	7	法人が事業を廃止すると、事業の実施する事業者がまったくなくなり、市民が不利益を被る。		○
3 市の施策推進における役割	8	法人の活動は、関連する市の政策、施策に結びついている。	○	
	9	盛岡市総合計画やその他の部門別計画において、法人の役割が規定されている。	○	
	10	盛岡市総合計画やその他の部門別計画において、法人が実施する事業の施策上の役割、方向が規定されている。	○	
合計			7	3

#### ・評価コメント

目的適合性(公益性)について総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての評価及び関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]</p> <p>当法人が指定管理者となり運営している盛岡市総合交流ターミナルは、農業資源を活用した都市との交流促進を図るため、平成10年に開館した施設で、この施設の維持管理運営を行うため旧玉山村が中心となり設立されたものであり、農業振興のほか、玉山地域唯一の温泉保養施設として、地域住民の憩いの場、交流の場、保養の場として地域住民の福祉向上に寄与している。施設の管理運営は、温泉入浴施設のクアハウス、農産物の展示販売する産地直売コーナー、地産地消を推進する郷土食のコーナーや宴席の提供、宿泊施設の運営、食工房の運営などが主な内容となっている。これ以外にも生出地域の優れた自然や景観の象徴とされている生出湧水に至る遊歩道の案内や手入を継続的に行っている。</p> <p>以上のように施設の設置目的に沿った事業を法人として継続しているところである。しかしながら、施設の老朽化、周辺温泉施設の競合、景気低迷などの問題により来場者数の漸減傾向が継続し、収支の悪化を招き、それに加え昨今はコロナウィルスによる大幅な売上減少にも係わらず、経費では燃料単価の上昇などでより収支の悪化を招くこととなっている。</p> <p>[ 方 策 ]</p> <p>当施設の設置目的である都市との交流促進や市民の憩いの場、保養の場として多くの方々の来場を頂き、健全経営に努めることが使命と認識しており、今後も公益性を堅持して参りたいと思っております。その為にもこれまで以上に、地域の食材、素材に拘るとともに、地域と連携した方策を行うことでより一層連携を強めていきたいと考えます。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]</p> <p>法人は、施設の建設目的を理解し、目的に向かって一貫して事業を展開してきており、この姿勢は評価できるものである。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴いイベントの中止が相次いだ。前元年度までは、春の「唄と踊りの祭典」、夏の「ビール祭り」、秋の「ユートランド祭り」、冬の「雪あかり」等のイベントを積極的に企画・実施しており、地域のコミュニティ向上に資すると共に都市と農村の交流の場としての活用が十分に果たされていた。</p> <p>一方で宿泊利用は、ビジネス用途での需要が中心となっており、グリーンツーリズムの主な対象となると考えられるグループや家族での利用が伸び悩んでおり、農村資源を活用したグリーンツーリズムや地元食材を活かしたメニュー開発等による施設利用の魅力づくりに一層の努力が必要な状況と評価される。</p> <p>今後は、施設周辺農家や牧場の支援を得た農業体験等のプログラム策定、首都圏の大学等へのアクティブラーニングの提案、空き室となっている食工房の活用方法の検討、スポーツ団体等のスポーツ合宿について積極的な営業等により地域の魅力を対外的に発信し、利用者の増加につながるよう指導してまいりたい。なお、このような農村資源を活用した総合的な取組を本格的に実施することにより、会社の存在価値や希少価値が一層高まるものと認識している。</p>

## (2) 計画性

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 経営基本方針	1	経営基本方針を策定している。	○	
	2	経営基本方針の内容は、簡潔明瞭である。	○	
	3	経営基本方針には、法人の存在理由が規定されている。	○	
	4	経営基本方針について、経営陣が全ての役職員に周知している。	○	
	5	経営基本方針は、全ての役職員に浸透している。	○	
	6	全ての役職員が、経営基本方針に従った行動をとっている。	○	
2 中長期経営計画	7	具体的な指標に基づく中長期経営計画を策定している。	○	
	8	中長期経営計画と実績についての分析は、半期以内のサイクルで行っている。	○	
	9	中長期経営計画と実績についての分析結果を経営陣に報告し、分析結果に基づき業務改善を議論する仕組みがある。	○	
	10	中長期経営計画と実績についての分析結果を中長期計画の見直しに反映させている。		○
	11	中長期経営計画と実績についての分析結果に基づき、計画を達成するための具体的な業務の改善策を実施している。	○	
3 年次事業計画	12	年次ごとの事業計画を策定している。	○	
	13	年次事業計画と実績について分析し、分析結果を次年度以降の事業計画や中長期経営計画に適切に反映させる仕組みとなっている。	○	
	14	年次事業計画と実績についての分析は、半期以内のサイクルで行っている。	○	
	15	年次事業計画と実績についての分析結果を経営陣に報告し、議論する仕組みがある。	○	
	16	年次事業計画と実績についての分析結果に基づき、具体的な業務の改善策を実施している。	○	
4 経営環境の把握	17	法人の経営資源の長所、短所を把握し、法人の活動に反映させている。	○	
	18	外部経営環境(事業に関わる社会経済の動向・法令等の動きなど)を把握している。	○	
合計			17	1

## ・評価コメント

計画性について総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]</p> <p>平成10年の開設から数年間は経営状況も順調であったが、平成17年以降は一部の年度を除き赤字決算となり厳しい経営環境が続き、資本金を取り崩して経営を存続してきたところである。しかし、抜本的な改善に至らず資本金が枯渇したことから、平成29年度に経営改善計画を作成し、市から指定管理料を受けて経営存続している現状である。</p> <p>この改善計画を基に毎年度の事業計画を作成、計画目標に取り組んだ結果、平成30年度、令和元年度は計画の売上げは確保したものの、施設の故障、水道光熱費の高騰などにより経費が増加したことから経営損失となった。更に令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により大きな売上減となっており、売上維持の為に計画性だけでなく実効性が求められているのが現状である。</p> <p>[ 方策 ]</p> <p>以前作成された改善計画はコロナ禍以前のものであることから、令和2年度10月に新たに経営改革プランを作成し経営理念を共有し、大きな目標として将来にわたり持続可能な経営体の確立と自立した経営への転換を図るべく、集客と売上げ拡大に向けた基本戦略を作成。社内の情報の共有化、外への情報発信、広報活動を促進していき新規顧客の取り込みに努めていきたいと思っております。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行に伴う売上減もあり赤字経営が継続されている。赤字経営への対応策の一つでもあったより短いスパンでの貸借対照表の状況把握・管理は、経営陣により対応されることとなったため今後も継続するよう努めることを望んでおります。</p>

## (3) 経営管理の仕組み

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 組織管理	1	組織構造は経営環境の変化に応じて定期的に見直しされている。	○	
	2	組織を機能ごと、または事業ごとに分け、役割を明確にしている。	○	
	3	部門ごとの連携が円滑に行われる組織体制になっている。	○	
	4	異なる業務間の配置転換、権限委譲等により組織の活性化を図っている。		○
2 コスト管理	5	事業別、業務別など、個別の事業内容に関するコスト分析を実施している。	○	
	6	コスト分析の結果が、経営計画や事業内容へ反映される仕組みとなっている。	○	
3 顧客満足度	7	定期的に顧客満足度調査を実施している。	○	
	8	顧客満足度調査の結果を分析し、分析結果を経営に適切に反映させる仕組みとなっている。	○	
	9	顧客満足度調査の結果を分析し、顧客のニーズを把握している。	○	
	10	顧客のニーズを分析し、その結果を踏まえて改善努力をしている。	○	
	11	中長期経営計画や年次事業計画に顧客のニーズを反映させている。	○	
4 職員の 人材育 成・能 力開発	12	業務に必要な知識を身につけるための職員研修や派遣を実施している。	○	
	13	研修等により、実際に職員の能力・技術が向上している。	○	
	14	職員が法人の活動に関わりのある資格を取得している。		○
	15	職員が研修で得たノウハウを、他の職員も共有している。	○	
	16	必要に応じ、専門知識を有する外部の人材を活用(職員として採用、指導や助言を受ける、など)している。	○	
	17	人材育成や能力開発を中長期経営計画等に盛り込んでいる。	○	
	18	経営陣は、人材育成や能力開発に積極的に関与し、かつ自らも学習し取り組んでいる。	○	
5 業務執行体制	19	決裁などの日常業務の意思決定や事務分掌、現金管理等、業務上の必要な規定が適切に整備されている。	○	
	20	理事会、取締役会をはじめとした業務執行体制が関係法令等に基づき適切に整備され、実質的に機能を果たしている。	○	
	21	経営上重要な意思決定は、理事会(取締役会、株主総会)の決議により行っており、必要に応じて迅速に開催できる体制が整っている。	○	
	22	監査の指摘事項に対して、改善策を実施している。	○	
	23	財務状況は、年度途中に定期的(必要があれば随時)に経営陣に報告する仕組みがある。	○	
6 情報公開	24	法人の財務状況や事業成果を積極的に外部に公表している。	○	
合計			22	2



・評価コメント

経営管理の仕組みについてについて総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]          日々の売上管理表、月次の利益管理表、勘定科目残高一覧表、月別総売上高、月別の入場者数など、売上及び入場者を昨年及び一昨年と対比させている。それを係長以上で毎週行う定例ミーティングで議題とし現状を把握。内容は議事録を作成し各部門に配布し現状と情報を共有。更に月次で開催する全体会議でも報告し改めて認識をしてもらうよう努めている。</p> <p>[ 方策 ]          お客様満足度を高める為に実施しているアンケートは記入をして頂いたものを回覧をし、部門へのお言葉があった場合は現場へのフィードバックを行っております。更にお客様の要望に対しては意見を出し合い直ぐ実行できるものは時間をかけずに実行するよう努めております。従業員の地元に密着した親近感の高い接客スキルを生かし、個々の力を発揮させていくことが売上増に繋がり更には健全経営に繋がると思われるので、より一層推進していきたいと思っております。コスト削減は改善すべきもの、減少できるものは取り掛かっており重要であると考えておりますが、一方でサービスの質、内容の低下に繋がる部分もあるので、単純にコスト削減に走ることをしないよう慎重に進めていきたいと考えております。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]          週単位で実施している定例ミーティングにて、経営状況に関する資料を係長以上で確認及び分析するようになったことから当該法人の経営管理に対する意識の変化が見られ、この点については評価できる。また、ラインの従業員と経営を直接動かす層が情報を共有する機会が増加するなど改善が見られた。経営を直接動かす層が、現場の意見や動きについて深く理解することが個々の業務の改善の提案には不可欠のため、今後についても社員一丸となり経営に向き合っていくことを所望します。</p>

## (4) 財務状況

項目番号	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 財務状況	1	債務超過になっていない。		○
	2	自己資本が十分に確保されている。		○
	3	借入金に依存しない資金運用を行っている。	○	
	4	市からの補助金の交付はない。または市に対する収入依存度は改善の傾向にある。		○
		平成31年度決算において単年度黒字である。		○
		令和元年度決算において単年度黒字である。		○
		令和元年度決算において減価償却前黒字である。		○
	5	累積欠損金がない。		○
	6	累積欠損金があるが、対自己資本比率は50%未満である。 ※この設問は、前の問で「いいえ」と答えた場合のみ回答してください。	○	
7	累積欠損金があるが、対自己資本比率は50%～100%である。 ※この設問は、前の問で「いいえ」と答えた場合のみ回答してください。		○	
合計			2	8

## ・評価コメント

財務状況についてについて総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]</p> <p>平成10年度の開設から数年間は経営状況も順調であったが、平成17年以降は一部の年度を除き赤字決算となり厳しい経営環境が続き、資本金を取り崩して経営を存続してきたところである。しかし、抜本的な改善に至らず資本金が枯渇したことから、平成29年度に経営改善計画を作成し、市から指定管理料を受けて経営を存続している状況である。この改善計画を基に毎年度の事業計画を作成し、計画目標達成に取り組んだ結果、平成30年度、令和元年度は改善計画の売上げは確保。しかしながら施設の故障、水道光熱費の高騰、人件費による圧迫から経営損失を計上。更に令和2年度はコロナウィルス感染症拡大により大幅に売上げが減少。未だ収束が見えないコロナウィルスの影響は今年度まだ続くと考えられます。</p> <p>[ 方策 ]</p> <p>コロナウィルス感染症拡大による全国的な日帰り宴会、及び宿泊宴会が皆無の状態は当施設も例外ではなく、大幅な売上回復はかなり難しいと推測されます。そういった状況下の中で新たな戦略等が必要とされますが、現在の状況では設備投資は中々難しいと思われるので既存の施設で如何に運営していくかが求められるかと考えられます。4月26日からのキャンプサイトのオープン、7月からの仕出し弁当の開始、9月からのワーケーション施設としての登録、酒販免許の取得と現状で考えられるものは取り掛かり、実行に繋げております。これからも週毎の定例ミーティングでの話し合い、従業員ワークショップでの様々なアイデアの具現化を行い、より魅力的な事業内容・施設となれるよう取り組んでいきたいと考えております。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による市況の悪化を受け、令和2年度は大幅に売上が減少した。令和3年度においてもコロナウィルス感染症の終息が見込めないため大幅な売上回復が困難ではあるが、新規事業への取り組みによる新規顧客の取り込みを図ったことから、悪化を食い止める努力が窺える。この姿勢について、今後も継続して取り組むよう希望します。</p>

## (5) 活動成果

項目	番号	質問	チェック欄	
			はい	いいえ
1 成果指標	1	各業務について、成果指標が数値で具体的に設定されている。	○	
	2	法人の設立目的と連動した指標となっている。	○	
	3	事業ごとに数値目標を設定している。	○	
	4	指標や目標は、類似の事業を行う他の団体(他の地方自治体の出資等法人など類似団体、民間企業、非営利団体等)の動向を踏まえて設定したものである。	○	
2 活動成果の評価と公表	5	主要な成果指標について良好な水準を保っている、または改善の傾向にある。	○	
	6	成果指標の達成度について定期的に検証が行われている。	○	
	7	法人の活動成果について、外部委員等による定期的な点検・評価が行われている。	○	
	8	活動成果をホームページ等の媒体を使って住民に公開している。		○
合計			7	1

## ・評価コメント

活動成果について総括的に評価し、課題が生じている場合、その解決のためにどのような方策を講じるかについて記載してください。また、法人に対する所管課としての関与のあり方について記載してください。

出資法人	<p>[ 現状と課題 ]</p> <p>以前の問題点であった組織の情報共有の為令和2年度より行っている定例ミーティング、全体ミーティングは今年度も継続しており、情報の共有は勿論の事、売上状況の把握、又問題点の解決に時に迅速な意思決定となっております。そして、その内容を議事録として配布することにより、タイムラグがない従業員への情報伝達となるよう努めております。しかしコロナウィルス感染拡大により売上の大きな改善は難しいままで進んでおり、利益率及び単価が高い宿泊宴会が皆無であること、経費に於いては燃料単価の高騰などにより収益の改善迄は至っておりません。従業員は個々それぞれしっかりと業務に励んでいて、時に一人二役をこなしているものの給与の改定及び賞与の支給などは停滞している事でモチベーションの向上、そして慢性的な人員不足に陥っているのが現状であります。しかし、これを改善するには諸々の問題があると感じております。</p>
	<p>[ 方策 ]</p> <p>定例ミーティング、全体ミーティングは継続を図ることで個々への意識を高めていく材料としていき、これからも問題解決、改善へと繋げていきたいと考えております。</p> <p>経営面では、各費用の吟味を行い無駄なもの、又効果が出ていないものは削減をしていきたいと思っております。しかしあくまで前提は売上増であり、顧客満足度を高め、社員が誇りを持って働ける環境作り、地域の活性化を図るとともに市民の保健及び休養と交流の場を作ることに邁進して参りたいと思っております。</p>
所管課	<p>[ 評価及び関与のあり方 ]</p> <p>経営に直接関わる層と現場の従業員間で情報共有の機会が増加したことは大きな改善であると評価している。財務などの定量的な数字で結果を出すためには、既存事業・業務の見直しは不可欠であり、そのためにはまず情報共有が社内で十分に図られることが肝要であり、今後も、部門間や職員間の垣根を超えて、赤字脱却に向けて一丸となって取り組むことを所望します。</p>

(6) 経営内容に関するその他の特記事項

出資法人

利用料金制を導入してオープンしたユートランド姫神は開業から24年を経過しましたが、その間玉山地域の人口が2割減少するなど近隣市町も同様の状況で、周辺人口の減少は経営に大きく負の影響として表れております。又、平成29年に大規模改修をしたものの、コロナウィルス感染の前であることで密集、密回避の観点からその用途性が制限されてしまうものがある事、未改修の機械設備や構造物の老朽化が進行しており、予算外の修繕が発生しているのが現状であります。このような状況の中ではありますが、将来にわたり持続可能な経営体の確立を目指すべく経営管理の仕組み、売上の拡大、人材力と組織力の向上など各般の改革に取り組み、将来にわたり持続可能な経営体へと転換を目指していきたいと思っております。

3 市による総合評価

施設の老朽化について、建物本体や設備の修繕・更新が十分に実施できていないことから、施設運営に支障が発生しないよう対応して参りたい。

財務状況について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響で売り上げが大きく減少した。令和3年度においても感染症流行の終息が見込めない中ではあるが新規顧客の取り込み、具体的には空室があった食工房へのジェラート工房の入居、登山客の誘客効果を狙った姫神山山バッジの販売、仕出し弁当の受注等を行った。また、産直施設の経営戦略を見直し売場のリニューアルを行ったり新規出品者の募集を検討したりするなど、財務の改善に向けて工夫を凝らしていく取組は評価でき、今後もこれらの取り組みを継続していくことを所望します。

市としては、市民の同意に基づく必要な財政的支援と情報提供や、担当課による法人の指導を引き続き継続して参りたい。